

田比沙門さまの訃報

裏新田と表新田のあいだの毘沙門さまのところには、松の老木がいっぱいあったんだと。昼までも、ここを通ったときには、うす暗くて気味がわるかったんだと。

ずっと遠いところからも、空にそびえた松林がわかったといわつちゃほど、でっけえ松があったんだと。いわきに旅した人が帰えつてくつとき、三春からもこの松林がみえたんだと。

ある時、村の人が、夜、このうっそうとした松林をとおった時、まっくらい林の中から、何だかわかんねえが「トビスコン、トビスコン」という動物の鳴き声ではねえが、めずらしい声が聞こえたんだと。

村の人は、おっかなくなつて、いそいで逃げたんだと。それから夜になつと「トビスコン、トビスコン」という声が聞こえるようになったんだと。

たまたま、気の強い、勇気のあるものが、ある晩ここを通つたんだと。

やっぱり、「トビスコン、トビスコン」という声が聞こ

えたんだと。

この勇気あるものは、「トビツクならトビツケ」つて、通りすぎつべとしたんだと。

そしたら、何かにとびかからつちやんだと。とびかからつちたまげたが、そのまま通りすぎたんだと。

つぎのあさ、何にとびかからつちやかたしかめつべと、勇者はゆうべの松林に行ったんだと。

松林には、一面に「けんぎゆう、さんご」がちらばつて、キラキラとかがやいていたんだと。ゆうべとびかからつちやのは「けんぎゆう、さんご」だったんだと。

それからは、この毘沙門さまは、げにかみさまつていわつち、おまいりすつと、金持ちになれるつていう信仰がさかんになったんだと。

旧正月のはじめてのとらの日のとらの刻におまいりすつと、金持ちになるつてゆつて、おまいりする人がふえたんだと。

今では、むかしの老木もなくなつて、イチヨウの老木が一本のこつているだけだと。おまいりする人もいなくなつて、さびれたということだ。